

墨水会だより

(旧府立第七中学校) 都立墨田川高校全日制同窓会 発行責任者 井上 常一



撮影 2011.12.25 井上 常一

母校は本年10月に創立90周年を迎えるが、大正11年の開校当初のこの地域の地名は、東京府南葛飾郡寺島町1359番地であった。

いわゆる東京郊外の牧場などもある静かな新開地であった。

大正12年9月の関東大震災の後、都心から近い立地のため鐘紡や資生堂、花王などの大工場と下請けの町工場などが続々と進出し、昭和初期には田園地帯から都市の様相に急変した。

その後大正15年校舎の第3期工事が終了し、翌15年10月に木造3階建ての堂々たる校舎の総てが落成し、昭和2年3月第1回の卒業式が行われた。

この旧木造校舎は昭和20年5月の空襲により全焼した。僅か20年の運命であった。

戦後の昭和23年4月に木造2階の仮校舎が完成し、昭和20年6月より第1寺島小、9月から言問小と3年間の仮住まいをしていた生徒はようやく自校校舎に戻れたのである。

その後定員増加や定時制の増設などで、昭和38年に鉄筋4階の近代校舎がようやく完成した。また昭和60年には老朽化した体育館を建直し、校舎西側に鉄骨3階建ての新体育館が完成、平成元年には現在の鉄筋5階複合建築の新々校舎が完成している。

写真のプールがある校舎は母校の進学重視型単位制高校への移行に伴う追加教室を設けるために校舎向かいにあった第2校庭に第2校舎として建築し、その校舎の3階屋上に25mの公式プールを設けた。当初は可動式の屋根を載せる予定であったが都予算の削減に伴いまだに露天の状態で使用している。

プールの水面には、今年5月22日に開業するデジタル放送用電波塔634mと世界一を誇る『東京スカイツリー』の姿が映っている。



ご挨拶

墨水会会長 墨田川3回

井上 常一

墨水会会員の皆様におかれましては、お健やかに新しい年を迎えられたことと拝察申し上げます。

平素は会の活動にご支援ご協力戴きまことに有難く厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は東日本大震災という未曾有の災害により多くの尊い命が奪われました。心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々には衷心よりお見舞い申し上げます。

本校にも被災地から一名の転入された生徒さんがあり、会からもお見舞いを申し上げます。

年一回毎年三月一日発行を行っている「墨水会だより」は今回十九号となり予定通り発行を行うことが出来ました。昨年の十二月以来会報発行にご尽力戴いた関係諸氏に厚く御礼申し上げます。

まず学校の現況について申し上げます。

二十年四月一日に着任されました佐藤光一校長先生は昨年三月三十一日に三年間の任期を終え退任されました。そして昨年四月一日より本校OB（高二十五回四十八年卒）柴田 哲先生が西部学校経営支援センター所長より本校学校長に栄転され、我が会の名誉会長に就任されました。

前任の佐藤校長先生は、進学型単位制高校としては国公立や難関大学への合格率が他の同型高校や近隣の有名都立高校の進学率に比較し、その成績内容がなかなか向上しない現状を憂慮され、就任と同時に急ピッチで

学校の改革に取組まれました。

その第一の方向性は『文武両道』です。進学校はとかく受験対応に力を注ぐため、学習本位に偏る傾向が見られます。

先生の指針とするところは、人間の人格形成や将来社会で活動することを考える上で、高校時代は極めて重要な時期であるとの考えからこのような方針を用いたのです。

その成果は年々実を結びつつあり、その結果は本校を志望する生徒さんの応募率に如実に現れています。佐藤先生の取組みで学校に生き生きとした活力が生まれて来たように感じる次第です。

佐藤先生の後任として第二十二代校長として着任された柴田先生は母校OBでもあり、佐藤先生以上に愛校精神を発揮し、墨田川高校のさらなる発展のため、かつての歴史ある伝統校の面目を取戻し、母校を更に躍進して行く方向に進めて戴けることを期待致す次第です。

武の活躍については昨年の会報でもご報告した通り女子、男子共に水泳に於ける抜群の能力と訓練を重ねた超高校級の選手の技量が昨年も発揮され、盛岡で行われた高校総体で全国三位の好成績を上げ、公立高校では第一位の成績でした。

その他ボート部もインターハイに出場活躍しました。

また五月に開かれる体育祭、九月の七高祭（文化祭）、二月の合唱祭、三月の吹奏楽部のスプリングコンサート等多くの全校生徒参

加の催しが毎年開催されスポーツや音楽、文化等の発展に寄与しています。特に吹奏楽部はその活躍が目覚ましく、東京都のコンペでは毎年金、銀の入賞をしています。私始め墨水会の役員も出来るだけ出席しその活動を見守っております。

水泳部、ボート部のインターハイ出場に際し、昨年一昨年と賛助金をお願いを致しましたが、OBの各位より貴重なご支援を戴き真に有り難うございました。厚く御礼申し上げます。

次に会の活動についてご報告申し上げます。

本年は母校が創立九十周年、人に例えるならば卒寿を迎えることになりました。

そこで来る十月六日（土）の創立記念日に祝典並びに祝賀会を開催致し度いと思ひます。

具体的な内容につきましては、改めて会員の皆様にご連絡申し上げる予定ですので、その節は宜しくご協力のほどお願い申し上げます。

年間に於ける会の活動を順を追って申し上げますと、新年度四月の常任幹事会を始めとして、会の活動の要となる常任幹事会は、四、七、九、十二、三月の年五回開催し、会運営の重要事項の審議と運営について協議します。この他不定期に会長、副会長、会計、監査、顧問を以て行う役員会を数回開催しています。また、毎年十月第一土曜日（開校記念日）には、年一回開催する同窓会の通常総会を開いています。昨年は上野池之端の東天紅で、百十二名の会員の出席を戴き開催しました。当日は柴田名誉会長に着任のご挨拶と講演をお願いし、吹奏楽部OBの方々には素晴らしい演奏をして戴きました。

なお、この総会当日は日比谷公会堂で毎年開催している東京校歌祭が開催されるので、墨水会も参加しております。この会には、OB始め毎年支援して下さる母校PTA美

汀会の皆様に参加して戴き、校歌と応援歌を歌っております。

その他毎年夏の七生寮閉寮式には常任幹事会の諸氏に呼び掛け、寮の運営視察を兼ね一泊二日にて七生寮に宿泊し、夏季のシーズン終了式の立会いを行っています。

昨年は八月二十一日の日曜日に出席者がそれぞれ七生寮に集まり、井上会長ほか十二名の会員、そして美汀会島田会長様にもご出席戴き、寮の施設の点検や運営状況についての意見などを交換し、その後賑やかに懇親会を開きました。

また、昨年は五年毎に発行している墨水会会員名簿の作製年にあたります。

そこで一昨年より事務局では谷沢副会長（事務局長兼任）を編集委員長として鋭意名簿原稿の整理補填に務め新名簿の発刊に向け作業を行いました。

そして昨年三月に、今回より書式を変更したA4判三七六頁の二〇一一年度会員名簿の発刊を行うことが出来ました。

新名簿発刊については会員の諸氏より色々なご意見やご要望を戴き真に有り難うございました。

とくに個人情報漏洩や秘匿等については厳重に配慮致しましたが、今後の発行については、それらの諸事情によりこのままで発行を続けることが予断を許せない状況であると考えます。

会員の皆様方にもその点を良く考慮認識され名簿の安易な貸出しや譲渡には厳にご注意戴きたいと思う次第であります。

さて、終わりに会員の諸氏に格段のご支援とご協力を戴き支援している（財）七星会についてご報告申し上げます。

軽井沢「七生寮」館山「楽水寮」の二寮の維持運営管理する機関である公益法人七星会は、二十二年度より改正施行された新法による法人に切替え運営を行わなくてはなりません。このことは前回の会報十八号でも記し

ましたように会員諸氏には既にご承知のことと思います。

現法人は公益法人で税の優遇措置がとられておりますが、今回の公益法人の審査基準は非常に厳重な条件のクリアが必要です。そこで今回は理事会にて協議研究の結果、一般財団法人として運営してゆくことに決し、一昨年より本会顧問であり理事の海谷弁護士を長とし、幹事長の山内弁護士、監査である宮本税理士、学校側から室長の吉沢専務理事の諸氏のそれぞれの専門分野を駆使されたご尽力により、新定款の作成、それに対応する理事、評議員の選任や諸手続きを経て新財団の申請書の提出を行う段取りがようやく整いました。

本年二月九日に臨時理事会が招集され、新財団へ移行するための決議が行われる予定です。

昨年の運営支援では、毎年の寄付二百万円の外、七生寮では食堂、共同洗面場等の改修塗装、デジタル対応大型TV二台(海谷顧問ご寄付)と新アンテナ設置、楽水寮では、東側外壁の全面塗装、破損が激しかった室内のブラインドをカーテンに交換、室内板部のニス塗装などの修繕・修復を行いました。また各部屋のTVにデジタルチューナーを設置し、VHFのアンテナをUHFのアンテナに交換し、デジタル対応に致しました。

お陰様で両寮の利用者も一昨年同期より少々ながら増加し、運営改善のきざしが見えます。OB各位のご利用を心よりお願い申し上げます。運営等につきご意見やご要望又はご質問等がございましたら、ご遠慮なく事務局までご連絡戴ければ幸いです。

結びとなりましたが、本年度も母校発展のために格別のご支援とご尽力を、そして墨水会活動には引き続き応分のご協力とご支援をお願い申し上げます。



文武不岐

校長 墨田川25回 柴田 哲

平成二十三年四月一日付けで東京都立墨田川高等学校の校長として着任しました柴田哲です。井上常一会長をはじめ、墨水会の皆様方には、日頃より、本校の教育活動への御理解、御支援を賜りまして、誠にありがとうございます。また、部活動の全国大会への参加に対し、多大な御支援を賜りました。重ねまして、御礼申し上げます。

さて、本校は、東京都教育委員会の施策である平成九年九月の「都立高校改革推進計画」に基づき、平成十二年度より新しいタイプの「進学重視型単位制高校」として、また、平成二十一年度から「進学指導推進校」として、かつての進学校としての復活に向け、再出発いたしました。歴代の校長先生方をはじめ、多数の教職員の方々のご尽力、並びに墨水会や美汀会の皆様方の御支援を受けながら、様々な取り組みに挑戦してまいりました。

私の教育スタンスは、佐藤光一前校長先生の「文武両道を極める」から、「文武不岐」といたしました。勉強も部活動・学校行事も極めていくことで、一つのものとなるという意味の「文武不岐」を今年度の教育スタンスとしました。

この「文武不岐」を教育スタンスとしている学校は、埼玉県立松山高等学校や茨城県立多賀高等学校、滋賀県立膳所高等学校等、多数あります。都立高校でも小山台高等学校が「文武不岐」を教育スタンスとしています。

この「文武不岐」を言い換えると、八十九年の歴史と伝統を継承し、「本校が目指すター

ゲット大学」を具体的に定め、大学への進学指導の充実を図り、進学校としての合格実績を向上させることを通して、二十一世紀をたくましく切り拓くリーダーとしての資質を生徒に身に付けさせることを大きなねらいとするところにあります。

具体的な方策としては、
◎国公立大学や難関私立大学への確実な合格のために

- 一 特別進学クラスの設置と週二回の特別講座の設置
- 二 予習⇄授業⇄復習・予習⇄授業とといった授業を大切に学習サイクルの実施
- 三 年間二十三回の土曜授業と放課後の講習・補習の実施
- 四 生徒の学習状況に応じた習熟度別授業や少人数制授業の実施
- 五 予備校に頼らない夏期休業中の講習の充実

※特に、今年度の夏期講習は、予備校の講習の申込前の五月に約百講座を生徒に提示し、本校教職員の意気込みとして、生徒に示しました。

また、国公立大学の受験に備え、九月に全学年の生徒に大学センター試験レベルの校内実力テストを実施するとともに、一・二年次生は一月の大学センター試験同日模試を全員受験させました。

◎新しい時代のリーダーにふさわしい教養や指導力等を培うために

- 一 文武不岐を基本にした教育スタンスに基づく教育活動の実践
- 二 学習規律に基づく進学校としての規律ある生活指導の充実
- 三 部活動推進校としてのケジメある部活動の展開
- 四 生徒の実行委員会を中心とした伝統ある学校行事の継承
- 五 グローバルな視点に立ったドイツ語・フランス語の第二外国語の授業

※特に、今年度の水泳部は、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)において学校別得点で全国第三位となりました。また、ボート部は、夏のインターハイへの出場だけでなく、三月の全国高等学校選抜大会にも出場いたしました。

このような具体的な取り組みを通して、生徒が志望する大学への合格を勝ち取り、一人の人間としての「学力」と大きな「自信」を身に付けさせるとともに、一人の社会人としての自覚ある「行動力」を身に付けさせたいと考えています。そして、本校の教職員が一致団結し、生徒のために尽力できる教育環境をつくることも校長の責務と考えています。

本校は、今年創立九十周年を迎えます。今後、百年、百五十年と本校が更に発展し続けるためには、今まで以上に教職員が一丸となり、生徒の力量を高める様々な取り組みに挑戦していかなければなりません。しかし、本校の教職員の努力だけでは限界があります。墨水会並びに美汀会をはじめ、関係各位の皆様方の御支援、御協力をお願い申し上げます。校長の挨拶といたします。



校庭よりスカイツリーを望む

平成23年度 墨水会事業報告

平成22年総会(10月2日) ～ 平成23年9月30日



墨田川10回
難波 直人

多くの方々の出席を期待し、総会会場へ向かいました。

後、忘年会に移り楽しいひとときをすごしました。

1. 第88回墨水会総会

平成22年10月2日 於 東天紅上野店

一般会員61名、周年会員9名、旧職員8名、現職員8名、美汀会3名、墨汀会2名、プラスバンド部OB・OG12名の合計103名の出席をいただき、午後4時半より総会が開催されました。井上会長の挨拶の後、佐藤校長より水泳部、ボート部の活躍の報告や援助に対するお礼の挨拶があり、その後審議に入りしました。難波副会長により事業報告、谷澤副会長による会計報告の後、

宮本監査による監査報告があり、全ての議事を終了し、その後懇親会に移りました。若手OB・OGによるプラスバンド演奏、有志の余興や同期会の報告などで盛りあがるなか、午後7時頃校歌を全員で合唱し散会しました。

3. 広報委員会

平成22年10月13日 於 同窓会室

第1回の委員会が7名の出席者のなか行われ、墨水会だより第18号発刊につき、昨年度の反省、今年度の方針の確認、業者の選定等が話されました。

7. 広報委員会

平成22年12月15日 於 同窓会室

8名の委員が出席し、原稿の読み合わせを行い、(株)サラトの担当者を交えて割り付けを行いました。

4. 広報委員会

平成22年10月27日 於 同窓会室

(株)サラトの担当者を招き、6名の委員と最初の打合せを行い、今年は名簿購入者に墨水会だよりも一緒に渡すこととし、その為に早めに完成させることとなりました。

8. 広報委員会

平成23年1月12日 於 同窓会室

6名の委員が出席し、(株)サラトの担当者が持参した墨水会だよりの校正を行いました。

9. 広報委員会

平成23年1月24日 於 同窓会室

3名の委員により墨水会だより第18号の最終校正を行いました。

5. 広報委員会

平成22年11月4日 於 同窓会室

(株)サラトの担当者と3名の委員と最初で基本的な割り付け、及び名簿購入状況等の報告や今後の話し合いが行われました。

10. 墨水会だより第18号

2011年度版名簿が完成し、平成23年2月10日同窓会室に搬入されました。

14. 第4回 常任幹事会

平成23年9月2日 於 母校会議室

33名の出席者があり、総会、校歌祭について話し合われ、その後本年度は役員改選期ということで、現役員の留任と墨田川13回卒の横井正男氏が副会長に推薦されました。また各幹事に総会案内の往復はがきが配られました。

2. 第18回東京校歌祭

平成22年10月2日 於 日比谷公会堂

今年は若手OGによる指揮・ピアノ演奏のもと参加しました。当日の参加者は例年より若干少なく、30名とやさみしい会となりました。来年はより

6. 第1回常任幹事会兼忘年会

平成22年12月4日 於 東天紅海燕亭

29名の出席者があり、総会、及び懇親会についての報告の後、会計報告が行われました。また来年度の総会も東天紅で実施するための仮予約の報告の

11. 役員会

平成23年3月24日 於 同窓会室

10名の役員が出席し、水泳部、ボート部のインターハイ参加に際する寄付の会計報告、及び墨水会に対する50万円の寄付依頼について話し合いが行われました。

12. 第2回 常任幹事会

平成23年5月18日 於 母校会議室

34名の委員が出席し、本年度の総会について、また(財)七星会への200万円の寄付の了承、墨水会だより第18号発刊についての報告等がなされました。

13. 第3回 常任幹事会

平成23年7月13日

於 母校多目的ホール

23名の出席者があり、本年度の総会、校歌祭について話し合いを行いました。昨年度の校歌祭は参加者が少なかったため、担当者から多くの方々の出席依頼があり、総会については昨年より30分時間を繰り下げ午後4時半より行うことになりました。また若い人たちの出席を促す方法について色々な意見交換がなされました。

谷澤副会長。

井上常一	大木善夫	梶原徳二	泉妻秀一	清宮 胖	難波直人	横井正男	谷澤尚樹	竹鼻宏子	加藤多恵子	清澤健一	小川浩平	高田まさ江	出羽邦夫	山内雅哉	山内雅哉	山内雅哉	幹事長	會計	谷澤尚樹	赤津吉延	宮本雄司	石井温	海谷利宏	顧問	相談役	内田博万
高3	中20	高4	高8	高10	高10	高13	高15	高15	高15	高17	高18	高18	高23	高30	高30	高30	高30(兼任)	高15(兼任)	高15	高10	高30	高31	高1	中21	高2	高4

平成23年度墨水会会計報告

会計

墨田川10回 赤津 吉延
墨田川15回 谷澤 尚樹

収支計算書(平成23年度)

平成22年7月1日から平成23年6月30日まで
(平成23年10月の総会で発表したもの)

開 始 残 高

平成22年7月1日

(単位:円)

1 資産の部		
定期預金 (一般口座)	10,000,000	
" (寄付口座)	5,000,000	
普通預金 (一般口座)	6,726,686	
" (寄付口座)	1,606,579	
現金	437,358	
在庫品	0	
資産の部合計		23,770,623
2 繰越の部		
繰越金	24,817,119	
前期剰余金増加額	△1,046,496	
繰越の部合計		23,770,623

閉 鎖 残 高

平成23年6月30日

(単位:円)

1 資産の部		
定期預金 (一般口座)	10,000,000	
" (寄付口座)	5,000,000	
普通預金 (一般口座)	5,833,129	
" (寄付口座)	686,365	
現金	123,327	
在庫品	4,151,000	
資産の部合計		25,793,821
2 繰越の部		
繰越金	23,770,623	
当期剰余金増加額	2,023,198	
繰越の部合計		25,793,821

1 収入の部

(単位:円)

科 目	金 額	摘 要
22年度卒業生入会金	2,512,000	314人×8,000円
名簿代(22年度卒)	1,413,000	314人×4,500円
寄付金	1,071,350	102人, 1団体
名簿販売	14,500	3冊
名簿購入協力金	3,075,900	(株)サラト
利子	89,879	
当期収入合計(A)	8,176,629	

2 支出の部

科 目	金 額	摘 要
墨水会会報費	506,520	3,000部
総会費	286,476	往復葉書等
名簿作成費	5,255,415	1,500冊
校歌祭費	110,740	参加費、ビデオ代等
通信費	125,860	切手代、郵送代
会議費	435,640	役員会、常任幹事会、広報委員会等
寮関係費	34,000	七生寮・楽水寮視察補助
渉外費	111,000	美汀会、七星会理事会等
事務委託費	685,800	小荷田さん・谷澤さん給与・交通費
慶弔費	95,750	佐藤校長退職祝金、松本先生弔慰金
寄付金	2,000,000	(財)七星会
学校補助金	550,000	垂れ幕、水泳部、ボート部補助
雑費	107,230	封筒、振込用紙等
当期支出合計(B)	10,304,431	

東京校歌祭について

校歌祭実行委員 墨田川17回 清澤 健一

平成23年度19回校歌祭は10月1日(土)日比谷公会堂にて開催されました。今回も、東大、一橋大の特別参加を含めて19校が参加しました。

墨田川高校は、休憩後4番目の出演で、井上墨水会会長が学校紹介をしたあと、ブラスバンド部卒業の伴奏と指揮のもとに、50名で応援歌、校歌を歌いました。今回は、初めての参加者もあり、昨年より大幅に増えました。

来年は東京校歌祭20周年記念事業として開催するため、各校とも力を入れて取り組んでいます。墨田川高校も90周年事業を同一時間帯に行うことになりそうなので苦慮しています。

その次の21回開催についても日比谷公会堂の修理のため会場が使えなくなり、東京校歌祭について、大きく見直す時期になっています。

墨田川高校でも、現役の生徒も参加できますかと問い合わせがありました。が、会場の雰囲気もいいし、新宿高校も参加しているのでもう後要請したいと思っています。

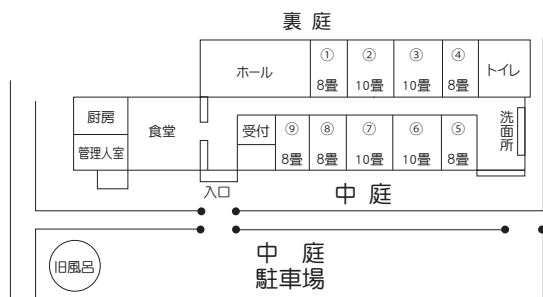
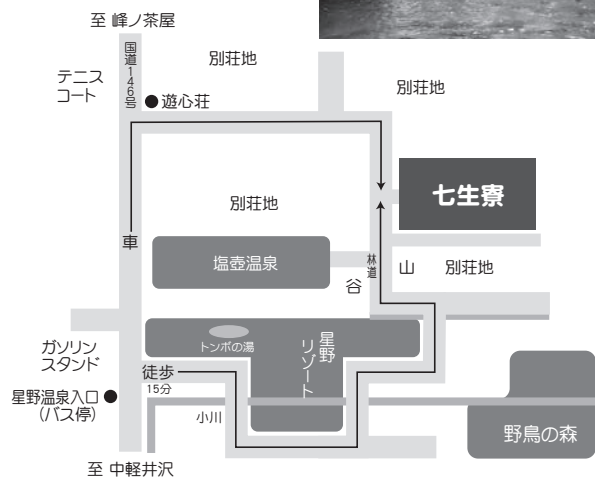
次回20回校歌祭は日比谷公会堂10月6日(土)午後1時に開催されます。





軽井沢

七生寮



〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉字赤岩2148
電 車 東京駅より新幹線あさま号で1時間35分
「軽井沢」駅下車、西武高原バス(草津温泉行)20分、
「星野温泉入口」より徒歩10分、
又は中軽井沢駅よりバス10分
自 動 車 国道146号峰の茶屋方面
城北信用金庫看板(遊心荘)手前右折1分

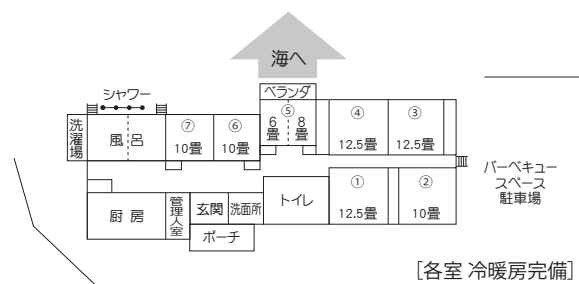
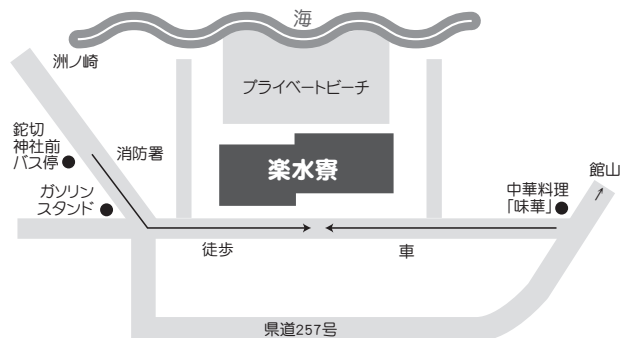
利用期間 8月1日から8月26日まで
申込方法 6月1日より7月18日までは学校にて予約
受付を行います。(7月19日より21日の間は受付をしません。)
学校受付 ☎03-3611-2125 (小荷田)
7月22日以後の申し込みは直接寮へ
寮 受付 ☎0267-45-5672
料 金 (一泊二食付き)
大人(中学生以上) 5,000円
子供(小学生以下3才以上) 4,000円
素泊 3,000円
休憩 1,000円
(朝食 800円)
(夕食 1,200円)

料金は業者も含め検討中です。変更になる事もあります。



楽水寮

房総館山



〒294-0303 千葉県館山市浜田160
電 車 東京駅よりビューさざなみ号2時間13分
内房線「館山」駅下車、JRバスにて30分、
「鉦切神社前」より徒歩2分
バ ス 東京駅八重洲口より急行バス館山行1時間45分
自 動 車 バス通り(房総フラワーライン)洲崎方面
中華料理屋(味華)脇右折3分

利用期間 原則として通年で利用いただけます。
(7月24日より7月31日までは生徒利用のため除きます。)
申込方法 7月19日より8月31日までは
寮 受付 ☎0470-29-0127 (管理人 網代)
その他の期間、及び6月1日より7月18日
までの夏期予約は
学校受付 ☎03-3611-2125 (小荷田)
料 金 夏期(素泊)
7・8月 大人 3,000円(中学生以上)
子供 2,000円(小学生以下3才以上)
休憩 2,000円(風呂代含む)
7・8月以外 大人 2,000円
子供 1,000円
休憩 1,000円(風呂代含む)

食事については、寮で注文してください。(お弁当・刺身の舟盛等)
尚、庭にてバーベキューを行う事が出来ます。(バーベキューセッ
ト使用料1台500円)又、厨房も利用出来ます(使用料1日500円)

（財）七星会の

現状と将来



海谷利宏
高1回

1 利用者は増加傾向にある。

（財）七星会が有する軽井沢の七生寮は、野鳥の森、星野温泉、塩壺温泉に隣接した閑静な場所にあり、館山の衆水寮は、内海にあり、波静かで海水浴に適し、近隣から隔離された海岸線に面した位置にあって、いずれも他に類をみない自然環境と利便性が高い場所にある。

2寮は、主として墨田川高校生徒の校外学習の場として活用されているほか、関係者の特段の配慮により、生徒を含め、本校教職員、墨水会会員、美汀会会員をはじめ、他の一般市民の利用者も増加傾向にあり、年間を通じて延べ1,000名以上になっております。

毎年3月に発行されている「墨水会だより」には、2寮の詳細な紹介と利用方法が掲載されており、七生寮は夏期間中、衆水寮は年間を通じて利用可能となっているので、何時でも余裕のある利用が可能である。一度利用された方は、期待した以上であると感心し、リピーターになる方が多い。

今後とも多くの方々には気楽に利用して頂きたい。

2 一般財団法人への移行手続を開始

平成20年12月1日から新法による新制度が施行され、5年以内には、（財）七星会は、一般財団法人が公益財団法人のいずれかに移行することになった。

そのため、制度施行後から、学校、墨水会、美汀会関係者で構成された理事会、評議員会で継続して鋭意検討を開始した。

平成22年度の理事会・評議員会は、関係者から幅広い意見を頂戴した上で、平成23年3

月に一般財団法人に移行するとの方向性を決定し、ついで平成23年度の理事会・評議員会は、平成23年6月に一般財団法人に移行するとの決議を行った。

決議に基づいて、（財）七星会から一般財団法人七星会への移行認可手続を内閣府に行うための準備を進めている。認可所管が東京都ではなく、内閣府になっているのは、所在地が墨田区にあるほかに、寮が長野県、千葉県と複数の県に跨っているからである。

3 一般財団法人とした理由

従来の財団法人は、一般財団法人が公益財団法人のいずれかに移行する。

一般財団法人の中で公益性が高いと認められる法人が公益財団法人となり、その他は一般財団法人になる。

公益財団法人は、公益性が高い事業を行うので、収入による所得が生じてても、非課税扱いになる。他方解散する場合には、その財産は、同種類の公益財団法人、国や地方公共団体に贈与することを定款で定めなければならぬとされている。

本校では、（財）七星会を昭和35年3月に設立し、その際、本校の所有であった軽井沢の土地を財団に寄付することで基本財産の一部とした。このような歴史的経緯とその後50年間に亘る本校を中心とした運営管理の実態から、主として本校の生徒の校外学習、奉仕活動の場としての寮の維持管理を目的として存在している。

これに付随して本校の教職員、墨水会及び美汀会、墨汀会関係者の学習、福利厚生のために利用され、又、他校関係者や一般市民に

も開放されてきた経緯がある。

従って、広く開放された公益性が高い法人とまでは言えず、事業による所得については、法人として課税対象になる。しかし、事業規模からみて課税の場合でも僅かであろう。解散の場合の財産の処分については、公益法人のような制限は受けない。

このように（財）七星会の過去及び今後の活動の実態を踏まえて、数年に亘り、理事会、評議員会で協議を重ね、広く関係者の意見を伺った上で、今後の運営は、一般に活用して頂きながら、従来の活動目的を継続させていくため、一般財団法人に移行することとし

続「七生寮」のある軽井沢周辺見て歩き

クーラーのいない涼しい夏を軽井沢で過ごしましょう。



井上常一
墨田川3回

浅間山麓の丘陵地帯にある七生寮は、中軽井沢駅から草津方面に行く146号線のゆったりとした昇り傾斜を2.5kmほど走り、道が浅間山方面の右カーブにさしかかると、高度（標高）が駅の付近より20mほど高くなり浅間山の熔岩台地に入ります。

寮はその高くなった台地の末端の地に位置し、その下に星野温泉の諸施設や塩壺温泉ホテルが展開しています。

かつてはこの比較的平坦な地域、星野温泉の一面に野球場、テニスコートなどの諸施設があり、その一番奥に星野温泉ホテルがありました。中軽井沢駅からホテルまで、到着す

た。

4 今後の運営管理について

収入は、生徒の校外学習の際の費用、寮の利用料金、美汀会会員と墨水会や同会員からの寄付及び一般の寄付に依存している。

運営は、今後とも2寮を将来の夢多い生徒の教育活動に生かして貰うべく、相当な部分を、関係者の奉仕的活動に頼っている。

一般財団法人に移行後も、学校、墨水会、美汀会、墨汀会の従来以上のご協力とご支援、一般の方々を含めての関係皆様のご理解とご協力を頂き、一層のご活用をお願いしたいです。

現在バス利用客の減少で路線バスの運行は廃止され、僅かに軽井沢駅から草津行きのバスがごく少数の時間帯で運行されているのみですから、長野新幹線軽井沢下車し、信濃鉄道に乗り換え次ぎの下車する中軽井沢駅からタクシーを利用するか、または徒歩で行く方法がありません。

東京から1時間10分と飛躍的に便利となり、東京まで通勤可能となった軽井沢ですが、中軽井沢駅からのアクセス面では昭和60年以前の方が遙かに便利でした。

従って近年はマイカー利用で訪れる方がほとんどです。

ちなみに徒歩で中軽井沢駅から寮まで歩くと30〜40分かかります。健康指向の強いこの頃ですから歩くのも一興であるかも知れません。

中軽井沢の別荘地帯は、かつて中山道の沓掛と呼ばれた宿場町でしたが、今や旧軽井沢に次ぐ別荘地で、豊かな森をぬって個性派美術館や温泉が点在する詩情あふれるエリアとなりました。

寮の付近には、明治、大正期のキリスト教の伝導者として有名な内村鑑三ゆかりの品々を展示した内村鑑三資料展示室、洋画家田崎広助の作品約70点を展示している田崎美術館、アンディ・ウォーホル、カンディンスキーなど国内外の20世紀の巨匠たちの作品を展示したセゾン現代美術館、軽井沢町歴史民族資料館などがあります。

野鳥研究家として知られた星野嘉助が中西梧堂らと野鳥観察のために造った野鳥の森は、星野温泉リゾート付近の野鳥保護区に造られた広さ約100haの、寮の東側下にある森林です。

観察小屋の餌場にはシジュウカラやコガラなどの鳥がやってきます。

星野リゾートでは『ピッキオ』と呼ばれるメンバーが主催しているネイチャークウオッチングに参加すれば、より詳しい野鳥の生態観察や情報を得ることが出来るでしょう。

温泉施設としては、前号にてご紹介した『とんぼの湯』のほかスケートセンターの敷地内にある『千ヶ滝温泉』があります。

こちらの日帰り温泉は、男女別の大浴場のほか岩造りの露天風呂なども備え、快適な温泉施設と言えます。

この付近はかつてパターゴルフ、ボート、スケートリンク、ボーリング場、テニスコート、ゲームセンター、レストランなど多彩な複合施設が立ち並び大変賑やかな地域でしたが、主体の西武鉄道の事業縮小に伴い、近年は人の訪れも少なく大駐車場を備えた温泉施設にのみ人気が集まり毎日入浴客で混雑しています。

寮の付近にはもう一ヶ所の温泉施設があります。それは寮の西側の下にある老舗ホテ

ルの『塩壺温泉ホテル』です。

この宿では戦前から別荘や登山者など一般の人々にも温泉を開放しており、現在も入浴料千円で、温泉に入ることが出来ます。泉質はアルカリ炭酸泉で、肌に柔らかく、疲れをとり、飲用すれば胃腸病の予防になるとの効能です。少々浴場の狭いことが気になります。

浅間山の伏流水が豊富にあるこの地には、至る所に湧水が出ていましたが、人口が増加し夏の避暑以外にも通年で生活する定住者も増加したため、湧水の量がぐっと少なくなり、寮の裏を流れていた小川などが枯れ、このままだといずれ湧水が枯れるのではないかと危惧しています。

七生寮も戦後しばらくは付近の湧水を生活用水として使用していましたが、現在は町の水道が完備され真夏の時期でも15度前後の冷たい水を飲むことが出来ます。

水質は軟水で石鹸類も良く溶け、殺菌用の石灰などのまじらない水なので、毎年七生寮に出掛け水のおいしさを確かめながら有難く戴いています。

次ぎは、信濃追分から小諸方面の探勝、見て歩きを致します。

江戸時代徳川幕府の置かれた江戸から日本の諸国に通じる街道が多数ありましたが、その中でも江戸の日本橋を起点とした五つの街道、すなわち東海道、中山道、日光街道、甲州街道、奥羽街道は幕府にとって、参勤交替の通行や物資輸送は勿論のこと、経済的にも戦略的にも重要な幹線道路でありました。当時碓氷峠越えをした旅人が最初に宿泊する地は、中山道が北国街道と別れる追分宿でした。峠越えをすると始めの宿場は軽井沢宿でしたが、宿が多く大名が宿泊する本陣などの設備が整っていた追分宿に泊まる場合が多かったようです。

しなの鉄道信濃追分駅を降り浅間山方面に向かう道を北西に1kmほど歩くと国道18号線にです。

旧中山道はこの国道の北側に並行して約1.2kmほど続き、両側の町並みが当時の面影を残しており、板葺き屋根の旅館や茶屋などが並び、一里塚などの史跡や、松尾芭蕉の句碑などが残っています。

北国街道との分かれ道には、街道の分岐点を示す分去れの碑と名付けられた大きな石の灯籠が立ち、往事を忍ぶことが出来るでしょう。

なお、追分には母校OBの方で、昔の面影を遺すこの地を選び、別荘をお持ちの会員が多くおられます。

さて、追分宿の旧街道沿いには、宿場町として栄えたところから現在に至るまでの宿場の歴史を紹介する『追分郷土資料館』があり、古文書や生活什器など約六千点に及ぶ資料を展示しています。資料館の建物は当時の旅籠に似せた造りになっており是非見学して下さい。

このほか軽井沢を舞台として数々の作品を遺した堀辰雄の文学記念館や街道時代は脇本陣としてその役割を果たしてきた油屋旅館が現在も営業を続けております。残念ながら当時の建物は火災のため焼失してしまつたのですが、丸子から移築された民家が風情ある空間を作り出しております。街の散策は徒歩でその風情を味わうことが良いと思います。

付近から少々足を伸ばすと、しなの鉄道一つ先の御代田駅の北側に、かつてオーシャン酒造がウイスキーを醸造していたディストリリーがあります。現在はメルシャンが後を引き受け、メルシャン美術館として営業しています。

建物は樽の貯蔵庫を改装した造りで、企画展のみを行う施設ですが、館内には、ミュージアムショップや見学が出来るウイスキーの醸造所やレストランもあり、夏場の避暑期にはモルトウイスキーの試飲なども出来るちよつと面白い見て歩きとなるでしょう。

追分で分かれる北国街道は新潟や富山、石川に続く道ですが、信濃追分から長野まで、江戸期には善光寺街道と呼ばれました。中山道は追分から左に道をとり小田井宿を抜け上信越道の佐久ICの脇を通り佐久平の中心であった岩村田の町に達します。

佐久平は新幹線の開通前はJR小海線が走る静かな田園地帯で、鯉の養殖と佐久米の産地として有名でした。しかし新幹線開通と共に岩村田のすぐ西に佐久平駅が開業し、地域の様相は一変しました。駅を中心として、田畑や野原、養殖池などは大きなスーパーや飲食店、商店、住宅が目白押しに進出し、それまでこの地域の中心であった小諸市が衰微したのです。今回はこの新開地佐久平周辺は割愛し、北国街道に道をとりご案内を致すことにします。

追分から分かれた街道の次ぎの宿場町は小諸市です。

前述した通り小諸の町はかつての繁栄とはほど遠い町となりましたが、筆者の大好きな日本の原点を遺している古邑であると思います。

城下町である小諸の歴史は古く、江戸時代五代将軍綱吉の元禄十五(1702)年、徳川親藩である牧野家が越後の与板藩からこの地に一万五千石で入封し、幕末まで十代百六十六年に渡ってこの地を支配統治しました。

町は比較的大きな災害や戦争などなく平和に過ごしたので、現在でも江戸後期から明治期に建てられた重要文化財級の町屋や土蔵が多く遺され、現在も使用されています。

中でも国の重文に指定されている旧小諸本陣は見事な木造総二階建て棧瓦葺きの大規模な建築で、江戸時代には本陣と問屋を兼ねており、真に堂々とした建物です。向かつて左には一間薬医門形式の表門があり、大名到着時にはこの門から駕籠のまま入って、その奥の座敷の式台玄関から上がったと伝えられています。

同期会・クラス会

墨田川6回 昭和29年卒 F組クラス会

茶谷 正義

担任は数学の教師、鈴木良平先生(故)で、ニックネームは「リヨッペさん」。1年生から卒業まで3年間担任をしていただいたため、クラスの皆から慕われておりました。平成18年のクラス会では「リヨッペさん」を偲んで、サッカー部(先生はサッカー部顧問)でよく利用した「向島百花園」で26名の出席者を迎えて開催されました。女将さんからは当時の思い出話をしていたいだたりして楽しいひと時をすごしました。

昨年のクラス会は当初4月の予定でしたが、3月の東日本大震災で延期され、11月23日銀座「Sunmi」で10名の出席者で開催されました。会員には、元大学教授、弁護士、1級建築士、税理士、会社経営者等多士済々ですが、クラス会では「お前」「おれ」の中で旧交を温めております。現在では皆な何らかの病気を抱えている人が多いのですが、会が始まると元気がいっぱい、制限時間をオーバーして近況報告をする方が出てきます。卒業時51名でしたが、前回クラス会の21年3月時点の生存者は46名でした。クラス会



は2〜3年ごとに開催していますが、出席者は平均15名前後と減る傾向にあります。出席者を得ないことです。

墨田川7回 昭和三十年卒 D組クラス会

小熊 進

昭和三十年卒D組クラス会は、去る平成二十三年五月二十七日に、往年の文化発祥の場でもある神谷パー二階にて午後一時より開催いたしました。

ここ数年、年一回のペースで同時期同場所にて定着しつつあり、今年も参加者は女性五名、西島夫人、男性十名の合計十六名と去年より欠席者は男性三名と増えましたが、互いに顔を合わせるや、飲むほどに皆、心おきなく饒舌、笑顔になり、現在七十歳半ばの我々も早や高校生時代に転身です。

話題は世界規模でショックを与えた三月十一日の東北震災と、一昨年逝去された我等クラス全員の敬愛する西平先生の念願であった卒業記念文集の復刻版「にきび」誌発刊の実現でした。

前段の件では丁度、仙台に出張で出向いて居た人、交通難民で駅に宿泊を余儀なくされ



た人たちの経験談でした。後者の「にきび」誌復刻版発行では、なにしろガリ版刷りで五十数年前の古い冊子(西島氏が大切に保存していた我々の貴重な宝物)の為、復刻にあたり西島・横山氏及び西島夫人の超プロ級のお力添えで立派な復刻版が出来上がりました。これでやっと西平先生も彼の世界で例の微笑みをされているのではとの思いは筆者だけだったのでしょうか。

墨田川10回 昭和三十三年卒 E組クラス会

田中 豊

私たち昭和33年卒業のE組のクラスは、3年間を通して、担任中島 馨先生の熱い御指導を受けました。平成6年7月17日に、中島先生の「喜寿をお祝いする会」として、クラス会を向島百花園内の「さわら」で開催しました。中島先生は平成11年5月に他界されました。その後開催のないまま、時が過ぎましたが、我々が、「古希」を迎えるのを契機に、平成21年8月に15年振りのクラス会を千葉県市川市で開催しました。旧友とも久し振りに会って、徐々に、若かりし頃の顔を思い出し、またお互いの近況も判り、懐かしい会となりました。そして、平成23年8月盛夏に、向島百花園前のイタリア料理店「SANTINI」にて4回目のクラス会を開催しました。参加者は男性12名、女性2名、合計14名でした。冷たいビールで喉を潤しながら、大いに昔話に花が咲き、楽しい時を過ごすことが出来ました。歓談終了後は、百花園の庭園内でスカイツリーをバックに記念撮影した後、更に母校に足を運び、しばし当時の風景を思い出す懐かしい機会となりました。これからも適宜クラス会を開催して、旧交を温めたいと考えております。

卒業時の級友は49名ですが鬼籍に入られ



た5名、住所不明者14名が居ります。今後、不明の方々の消息が少しでも分かることを期待しています。代表幹事は奈良木亨丞君、事務局は内山偉陳で実施しています。

墨田川15回 昭和38年卒 C組クラス会

渡邊 幸夫

平成二十三年十一月十二日(土)に二年振りに港区の愛宕山にある某損保会社の施設をお借りして開催しました。偶々この会社に我がクラスの出身者が二人もいて幹事役をお願いしていた関係で、東京のご真中になん所があるのかと思うほどの環境の良い場所でした。当日は七五三のお祝いで着飾った女の子を連れて、山頂の愛宕神社に詣でる親子の姿も多く見られました。

同級会の出席者は、女性六名、男性八名の十四名で前回より少し減少しましたが、近況について語り合い旧交を温めました。やはり六十六歳を過ぎると既に定年退職して第二の職場で頑張っている人、第二の職場も終わり人生を楽しんでいる人も増えてきました。話題は健康管理のこと、孫のこと、趣味の楽しみ方などが必然的に多くなりましたが、七高の軽井沢や館山の寮の話が出て、夏に皆で一泊旅行をしてみたいということになりました。二時間はアツという間に過ぎ、近く

の喫茶店で二次会のあと再会を約して散会となりました。

最近では同級会を二、三年おきに開催していますが、出席者の顔ぶれが固定されてきてしまい、少々残念です。暫く出席されていない方も次回は是非参加してください。



七生寮旅行記



墨田川15回
加藤多恵子

8月21日〜22日例年の七生寮の視察旅行に参加しました。井上会長、海谷顧問他10名の出席で楽しい一時を過ごしました。今年は業者を入れず墨水会有志による試験的運営業者によるお弁当方式でしたが利用者の人数もクラス会を行った期もあつたりして、例年より多かったとの事ですが、今後の運営をどのようにしていくか検討が必要だと思えます。

寮は6月の修理で洗面所及び食堂の床が塗り直されトイレの扉も取り替えられきれいになりました。しかし、地震により屋根等に被害が出たようで、まだまだ補修が必要です。より多くの御利用をいただければ経費の捻出にも役立つと思われそうです。是非皆様お出かけ下さい。

「墨堤と桜並木」由来

墨田川13回 横井正男

母校墨田川高校を象徴するひとつ「隅田川」その堤を墨堤(ボクテイ)と言います。この墨堤が築かれたのは大変古く、小田原北条の時代(1500年代中頃)で、隅田・寺島・須崎・小梅の4か村にわたる二千百余間(約3.9km)が築造されました。

桜の名所「隅田公園」は桜のシーズンには花見客で大変賑わいますが、その中核を成す「墨堤の桜」の歴史は江戸時代に遡ります。徳川幕府4代将軍家綱が(1650年

代の頃)、常陸の国・桜川村(現在の茨城県稲敷市桜川)から桜の苗木を取寄せ、将軍の「隅田川御殿」(元鐘ヶ淵紡績工場)近くの旧木母寺(堤通2丁目)辺りに植えたのが始まりとされています。

1717(享保2)年、8代将軍吉宗は江戸庶民の憩いの場として、木母寺から南の墨堤に桜100本を、更に9年後、桜・柳・桃を各150本植えました。以来1854(安政元)年までに700本の桜が三囲神社まで植えられました。この間、大洪水での流失等がありましたが、多くの篤志家の協力により補植し江戸・桜の名所としての地位を確立します。

1883(明治16)年には、墨堤に別邸があった大倉喜八郎が地元篤志家たちが植替えを含め1,000本余りを植桜しました。



これらの由来を記した「墨堤植桜の碑」が名物「桜餅」和菓子店の左隣りにあります。1887(明治20)年に建立されました。この碑の題字は郷土の偉人・榎本武揚の筆によるものです。



右の絵は、墨堤下にあった牛島神社付近を描いた明治初期のお花見の賑わいの様子です。当時の牛島神社は桜橋近くの長命寺に隣接していました。絵の左下に1871(明治4)年に建立された「常夜灯」が描かれています。神社は1923(大正12)年9月の関東大震災で社殿を消失し、震災復興計画で現在の言問橋際に遷座されましたが、「常夜灯」だけがランドマークとして現在地(桜橋際)に残されています(写真右)。

現在の牛島神社南側一帯の日本庭園は、1693(元禄6)年に幕府から拝領した



墨堤の変遷：

写真上：1880(明治13)年頃の墨堤のお花見風景
写真中：1931(昭和6)年、隅田公園開園直後の墨堤
写真下：現在の墨堤 2010(平成22)年3月末撮影

旧水戸徳川家の下屋敷跡です。(上屋敷は後楽園)。明治維新後は徳川家本邸となり「小梅邸」と呼ばれました。桜並木は、徳川家により徳川家本邸の正門がある「枕橋」まで延長し植樹され、並木の魅力は一段と増しました。徳川邸は昭和5年に寄贈され、関東大震災復興計画のひとつ「隅田公園」として開園しました。

この素晴らしい墨堤と隅田川を歌った日本を代表する世界的な名曲が、明治33年11月に発表された武島羽衣作詞、滝廉太郎作曲の「春のうららの隅田川」で始まる「花」、そして幸田露伴作詞、弘田竜太郎作曲の我等が「都立墨田川高等学校校歌」です。

私たちの郷土の誇り、先人たちが作り守ってきた「墨堤・桜並木」をこれからも大切に維持・保存・発展させ、未来の子供たちに残したいものです。2007(平成19)年に墨田区は寄付を募って植桜を行い現在に至っています。



平成23年度 部活動実績報告

今年度も水泳部、ボート部、吹奏楽部の活躍が目立ちましたが他のクラブもスポーツ推薦入学試験で入学して来た生徒達も含め文武両道の目標のもと活発に活動し成果をあげつつあります。

水 泳 部

今年度も水泳部は、インターハイや国体でもめざましい活躍をみせ墨田川高校の名を高めました。

- ・北東北総体(インターハイ) (岩手・盛岡市立総合プール)長水路

女子総合 3位

女子 50M自由形	3位	田辺詔子(3年)
女子100M自由形	5位	田辺詔子(3年)
女子400M自由形	優勝	地田麻未(3年)
女子800M自由形	優勝	地田麻未(3年)
女子200M個人メドレー	6位	山口真奈(3年)
女子400Mフリーリレー	3位	山口真奈・地田麻未・野島七美・田辺詔子

- ・第66回国民体育大会水泳競技大会 (山口・山口きらら博記念公園水泳プール)長水路

少年A 女子50M自由形	4位	田辺詔子(3年)
共通女子400M自由形	2位	地田麻未(3年)
少年B 女子200M個人メドレー	7位	上田桜子(1年)

ボート部

- ・平成23年度全国高等学校総合体育大会(北東北総体)

岩手県花巻市にある、田瀬湖でレースが行われ、ボート部女子10人で試合に臨みました。

- 4 × + (女子舵手つきクォドルプル) 関(2年)、中村(3年)、窪田(2年)、鬼本(2年)、篠原(1年)

8月6日 予選	6位	4分1秒77で敗者復活戦に出場
8月7日 敗者復活戦	6位	3分51秒83 (5位と0.78秒差)
前日よりタイムを10秒近く縮め大健闘した。		

- W2 × (女子ダブルスカル) 高祖(3年)、白須(3年)

8月6日 予選が行われ	1位	3分51秒14で準々決勝へ
8月8日 準々決勝	1位	3分58秒77で準決勝へ
8月9日 準決勝でおしくも	4位	3分50秒99 (3位と1艇身差)になりました。

上位3艇までが決勝進出のところ、惜しくも4位となり、決勝を逃した。しかし準決勝に進めるのは12艇だけであり、レース内容から見ても全国と互角に戦える力をつけてきたと考えられます。来年の活躍が楽しみなボート部です。

吹 奏 楽 部

本年度の活躍もめざましく、シンフォニーヒルズを貸し切り、発表会を行ったり、学校前で地域の人達のために演奏会を行ったりしました。

- ・東京都高等学校吹奏楽連盟コンクール

A組	銀賞	受賞
B組	銀賞	受賞

女子バレーボール部

- ・インターハイ予選 4回戦
- ・春季大会 ベスト8

女子バスケットボール部

- ・インターハイ予選 3回戦進出
- ・夏季大会 3回戦進出

ソフトボール部

- ・公立新人戦 リーグ1位 都大会進出 ベスト16

男子バスケットボール部

- ・春季関東大会予選 2回戦進出
- ・都選手権兼インターハイ予選 3回戦進出

女子硬式テニス部

- ・都新人テニス選手権大会 シングルス3回戦進出
ダブルス3回戦進出
- ・都テニス選手権大会 団体2回戦進出

男子硬式テニス部

- ・都新人テニス選手権大会 シングルス3回戦進出
ダブルス2回戦進出

柔道部

- ・インターハイ支部予選 100kg級 個人 ベスト8

剣道部

- ・インターハイ都大会 男子個人戦 2回戦進出
男子団体戦 ベスト32
- ・秋季大会 男子団体 1部 ベスト32
女子団体 2部 ベスト16

ハンドボール部

- ・春季大会 3回戦進出

陸上競技部

- ・夏季競技大会 ハイジャンプ 都大会出場

軟式野球部

- ・全国大会都予選 4回戦進出

卓球部

- ・関東大会予選 個人戦 ベスト64
団体戦 ベスト16
- ・インターハイ予選 団体戦 ベスト32

サッカー部

- ・インターハイ東支部予選 都大会進出
- ・インターハイ都大会 2回戦進出

音楽部

- ・第78回NHK全国学校音楽コンクール 東京都本戦
優良賞 受賞

訃報



松本重雄先生(副会長)

中18回 昭和19年卒



本校の卒業生で、昭和二十三年より四十四年までの二十一年間母校で体育の教師として活躍され、特に大学時代ハンドボールでの全日本選手権に出場された選手としての経験から、母校のハンドボール部を全国レベルの水準まで引き上げ、同部を全国高校選手権や国体に数回出場させた功績は見事なものであります。

都立杉並高校の学校長を最後に教職から退かれ、その後地元墨田区の教育委員長に就任、地元の教育界振興のため尽力されました。

我が墨水会には平成六年より副会長に就任され、同窓会のご意見番として、会の発展に多大な貢献がありました。厚く感謝申し上げる次第です。

平成二十三年四月二日突然の訃報に接し、同窓会から井上会長が弔問に伺い、告別式には多くの方々のご会葬がありました。謹みて哀悼の意を表すると共に先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

村松吉雄様

中9回 昭和10年卒

平成元年より二十三年に渡り常任幹事を務められた村松様には平成二十二年十月に逝去されました。ここに氏の墨水会活動へのご尽力を謝し謹みて哀悼の意を表する次第です。

西川国良様

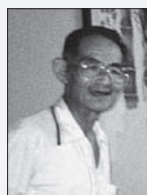
中11回 昭和12年卒



十年間に渡り常任幹事を務めて戴いた西川氏には、平成二十三年四月にご病氣のため逝去されました。謹みて哀悼の意を表すると共にご冥福をお祈りします。

鳥居良規様

高2回 昭和25年卒



平成十五年より常任幹事をお引受け頂き高校二回の取りまとめにご尽力された氏は、去る二十二年十月に逝去されました。生前のご尽力に感謝致すと共に謹んでご冥福をお祈り致します。

墨田川高校の ホームページが 開設されています。



アドレスは、<http://www.sumidagawa-h.metro.tokyo.jp/> です。

平成18年11月に墨田川高校のホームページをリニューアルしました。

現在の墨田川高校に関するさまざまな情報を見ることができます。

リニューアルにより、メニュー欄を充実させ、学校の状況をできるだけわかりやすく紹介するほか、ホームページのデータを印刷するときに、ほとんどの資料がA4サイズの紙1枚にまとまるようになっています。

内容については、学校運営(経営計画・経営報告など)、授業・教育課程(カリキュラム・講習など)、学校生活(部活動・学校行事など)、施設(寮の紹介など)、進路状況(進学・合格状況・進路だよりなど)、美汀会・墨水会の活動、入学希望者向け情報(入試情報・学校説明会・自校作成問題など)のほか、沿革、校歌(曲入り)など、盛りだくさんとなっています。

墨水会の情報も順次掲載していきます。

平成23年度(第63回生他)大学・短大合格状況

国公立大学

合格者延べ人数

大学名	現役	過年	計
埼玉大	2		2
千葉大	1	1	2
東京芸術大		1	1
埼玉県立大	1		1
首都大東京	2		2
都留文科大	1		1
国公立大学計	7	2	9

私立大学

合格者延べ人数

大学名	現役	過年	計
早稲田大	1		1
慶応大	1	2	3
上智大	1		1
東京理大	6	5	11
上記4大学計	9	7	16
明治大	13		13
青山学院大	3	2	5
立教大	6	1	7
中央大	9	1	10
法政大	23		23
学習院大	4	1	5
上記6大学計	58	5	63
成蹊大	5	1	6
成城大	4		4
武蔵大	10	4	14
明治学院大	10		10
上記4大学計	29	5	34
日本大	30	7	37
東洋大	48	4	52
駒澤大	11	2	13
専修大	23	5	28
上記4大学計	112	18	130
麻布大	1		1
亜細亜大	11	1	12
跡見学園女子大	2	1	3
江戸川大	1		1
桜美林大	2		2
大妻女子大	5		5
神奈川大	2	2	4
鎌倉女子大	1		1
神田外語大	9		9
北里大	1		1

大学名	現役	過年	計
共立女子大	1	1	2
杏林大	1	1	2
工学院大	5		5
国学院大	12		12
国土館大	13	1	14
実践女子大	3		3
芝浦工大	5	5	10
十文字学園女子大	4		4
順天堂大	4		4
城西大	1		1
城西国際大	2		2
昭和女子大	7		7
女子栄養大	2		2
聖学院大	2		2
聖徳大	10		10
創価大	3		3
大正大	14	1	15
大東文化大	3		3
高千穂大	1		1
拓殖大	7		7
多摩大	1		1
玉川大	2		2
千葉工大	5		5
千葉商大	2		2
中央学院大	1		1
鶴見大	1		1
帝京大	12		12
帝京科学大	4		4
帝京平成大	5		5
東海大	7		7
東京有明医療大	3		3
東京医療保健大	7		7
東京家政大	1		1
東京基督教大	1		1
東京経大	13		13
東京工芸大	1		1
東京情報大	1		1
東京女子大	1	1	2
東京聖栄大	2		2
東京成徳大	1		1
東京造形大	1		1
東京電機大	7	1	8
東京都市大	2		2
東京農大	10		10

大学名	現役	過年	計
東京福祉大	1		1
東京未来大	1		1
東邦大	5	2	7
獨協大	16	1	17
二松学舎大	1	1	2
日本工大	2		2
日本獣生命大	1		1
日本薬大	1		1
人間総合科学大	1		1
文教大	8		8
文京学院大	7		7
武蔵野大	4	1	5
目白大	3		3
ものづくり大	1		1
立正大	2	2	4
流通経大	1		1
了徳寺大	2		2
麗澤大	2		2
和洋女子大	5	1	6
私立大学計	498	58	556

文部科学省管轄外

大学名	現役	過年	計
職業能開大学校	1		1
計	1		1

短期大学

合格者延べ人数

短大名	現役	過年	計
青山学院女短大	3		3
大妻女大短大	3		3
聖徳女短大	4		4
創価女短大	1		1
帝京短大		1	1
貞静学園短大	1		1
東京家政女短大	4		4
東京農女短大	2		2
日本体育女短大	1		1
立教女学院短大	1		1
短期大学計	20	1	21

現役の欄は平成23年3月に卒業した第63回生の実績です。過年の欄はそれ以前に卒業した者で、連絡のあったもののみ計上してあります。

平成23年12月時点での
現3年次生(第64期生)の
主な進路状況

これまでに指定校推薦、公募推薦、AO入試等で、次の大学・短大に合格者が出ています。大学入試センター試験(二月十四十五日・二十六十八名出願後、私立大学の一般入試、国公立大学の個別試験が始まりますので、合格者はさらに増えていきます。(カッコ内は複数合格者がいる学校の人数)

国公立大学・計2名

千葉大学 看護学部
首都大学東京 医療保健学部

私立大学・計56名

慶應義塾大・上智大・東京理科大(2)・中央大(2)・立教大・法政大(3)・学習院大・成蹊大・武蔵大・明治学院大・日本大(5)・東洋大(3)・専修大・東邦大(2)・桜美林大・神田外語大・女子美術大・帝京大・帝京科学大・帝京平成大(2)・東京都市大・東京農業大・東京医療保健大・東京家政大・東京工科大・東京工芸大・東京福祉大・昭和音楽大・杉野服飾大(2)・聖徳大(4)・武蔵野大(5)・武蔵野音楽大・文教大(4)

短期大学・計5名

青山学院女子短大(3)・大妻女子短大・立教女学院短大

※指定校推薦出願者(学校からの推薦者) 39名
(昨年度出願者 33名)

第15回 寄付金一覽

平成23年1月～平成23年12月末日

會計 墨田川10回 赤津 吉延
墨田川15回 谷澤 尚樹

今回は百七名の方々と二団体より百十六万七千六百七十七円（利息を含む）のご寄付を頂きました。例年通り（財）七星会に二寮の維持管理のため二百万円のご寄付を致しました。又一般会計より、水泳部・ボート部のインターハイ出場への援助金等として五十五万円の寄付を学校へ行いました。尚今年度は井上会長より楽水寮のテレビの工事費（地デジ化に伴う工事）を負担して頂きました。又海谷顧問には七生寮に二台の大型テレビのご寄贈を頂きました。厚く御礼申し上げます。来年度は本校も創立九十周年を迎え、そのための寄付金もお願いする事と成ります。二寮維持の為の寄付とともに宜しくお願い申し上げます。

府立第七中学校

第10回 昭和11年卒業

飯島 俊夫

第12回 昭和13年卒業

島村 英雄

福島 秀男

墨水十二期会

第14回 昭和15年卒業

川合 純一

第15回 昭和16年卒業

入江 詮吉

岩瀬 豊彦

大羽 文夫

鹿又 勝夫

嘉重 正己

古明地 博正

佐川 一元

里見 達久

菅波 明久

小川 俊一

都立第七中学校

第18回 昭和19年卒業

秋元 幸雄

石井 善次郎

岩瀬 彰啓

氏橋 幸次郎

梅田 好男

第21回 昭和21年卒業

島田 収穂

灰谷 和正

第23回 昭和23年卒業

秋元 健一

荒川 博一

入澤 昭五

岩井 一三

岡田 俊弘

加島 三雄

木村 庸信

藤山 嘉淳

斎藤 三三

島谷 經三

都立第七高等学校

第1回 昭和24年卒業

青木 優夫

伊藤 一郎

牛山 淳一郎

海谷 利宏

長谷川 鉄夫

宮崎 喜一

都立墨田川高等学校

第3回 昭和26年卒業

秋山 昭一

井上 常一

木島 威也

第13回 昭和36年卒業

山澤 一喜

長谷川 瑞枝

田篠 達郎

石井 昭徳

横井 正男

第15回 昭和38年卒業

小竹 伸行

加藤 多恵子

第18回 昭和41年卒業

村山 康夫

高野 奎子

福沢 綾子

山岡 総一郎

齊藤 よし子

第22回 昭和45年卒業

小松 進

第25回 昭和48年卒業

倭本 康雄

宮本 雄司

宮本 勇人

有賀 康修

滝口 悦郎

旧職員

(株)東京コカコーラボトリング

桜井 正光

「墨水会だより」

第19号

発行：墨水会事務局

発行人：井上 常一

編集人：清宮 胖

墨田川高校内墨水会事務局

〒131-0032

墨田区東向島3-34-14

電話：03-3611-2125(代)

事務局代表：谷澤 尚樹

編集後記

仕合せの基は和にある。家庭でい
えば夫婦、親子、家族、学校でい
えば先生と教え子。その心が通
える様になればそれを軸にPTA、同窓会、
地域社会と広がって行く。今年の水
泳部、ボート部の活躍のすばらしい
事は、関係者一同どんなに喜んだ事
か。又、同窓会の用事で学校へ行く
と殆どの生徒が「こんにちは」と、挨拶
をしてくれる。心よりうれしく思
います。

是非、この次のインターハイ、国
体を頑張ってください。

広報委員長 墨田川十回

清宮 胖